

学 術 講 演 会 開 催



平成15年度最後の講演会『だれか気がついてキズからわかる児童虐待』が講師に名古屋市立大学長尾正崇教授をお招きし2月29日神奈川県歯科医師会館で開催された。幼児・児童虐待に関係する事件が連日のように報道され、最近特に注目されていることもあり、同窓会会員の他、児童相談所（児相）関係者、警察関係者約50名が参加し、毎回の講演会とは違った雰囲気の中、藤田晃会長の挨拶に続き開始した。

講演は「法医学から見た児童虐待の現状」で虐待児の司法解剖剖検例をとりあげ、虐待児に特徴的にみられる外表所見（皮下出血やキズの状態）の観察法を中心に進められた。どの事例もたいへん興味深く、時間が極端に短く感じられた。続いて本学法医歯科学教室の山田良広助教授（18回生）による「歯科医師と児童虐待」、同教室の山本伊佐夫助手（17回生）の「舌癒着症と乳児虐待」の講演が行われた。

講演終了後、新たに、横浜市中心児童相談所の三宅捷太所長、神奈川県警捜査一課の鈴木美仁刑事官にご参加いただき「児童虐待の早期発見に向けて」のシンポジウムが開催された。歯科医師が虐待の疑いのある児童を診察した場合、基本的には児相に相談すべきであり、近くに児相がない場合でも警察に通報すれば警察から児相に連絡する取り決めがあることなどが説明された。その後の質疑応答では神奈川県歯科医師会の取り組みや、愛知県歯科医師会の実際の取り組みおよび成果などが紹介された。

今回の講演会は、幼児・児童虐待の早期発見における歯科医師の重要な役割を認識するうえで非常に有意義な講演会であった。また、対象が同窓会会員・歯科医師だけではなく、公開市民講座の要素をもった講演会としたことで、同窓会としての新たな取り組みへの試金石であったように思われた。